

平成25年度「うさ教育・家庭・読書の日」推進事業



生きる力を育てる
学ぶ力を伸ばす読書

講師 齋藤 孝先生

「読書力が上がる読書方法」
36万部 読書

平成25年 11月17日(日) 入場無料

宇佐文化会館大ホール

宇佐市教育委員会では今年度より毎年11月の第3日曜日を「うさ教育・家庭・読書の日」として提唱し、子どもたちの豊かな心の育成や学力向上の気運の醸成に取り組んで行くこととしました。

11月17日(日)に講師をしていただく齋藤孝先生のプロフィールを産経新聞の記事から抜粋して紹介いたします。

年間数十冊もの著書を執筆している明治大学文学部教授の齋藤孝先生(52)は、33歳までは定収入もなく苦労続きの人生を送ってきました。それが、一転してテレビでもおなじみの顔に。運が開けた理由を尋ねると、「不遇時代に読書を重ね知識をためていたから」という答えが返ってきました。

司法試験に失敗

日本語の大切さを中心に教育論、身体論、ビジネス論など執筆分野は幅広く、著書は400冊以上にもなる。しかし「実は明治大学に就職する33歳までは苦労ばかり」だったという。

高校時代はテニス部に所属、テニスに情熱を傾ける一方で、小林秀雄の著書などを読み、将来は裁判官になりたいと考え、東大法学部を目指すことに。しかし、もともと自由に考えを巡らすのが好きな気質で、細かな暗記中心の受験勉強は苦手。一念発起し浪人の末合格したが、学部時代に受けた司法試験に失敗してしまう。

教育分野を目指す

そうして目指したのは教育分野だった。

日本の教育を変える思想家になると、大志を抱いて大学院は教育分野に変更。その間、私生活では結婚もし、2人の子供にも恵まれた。大学等の非常勤講師などをしながら生活していた。

33歳で定職得る

そんな暗中模索の人生に光が差し込んだのは、33歳の時。友人との飲み会の席で、たまたま明治大学の専任講師への求人があることを聞いたのだ。そして縁があって採用される。30歳過ぎにして初めて定職を得ることができた。

そして7年後、「世を変えるほど影響力のある本を出す」という20年越しの夢をかなえるチャンスが突然舞い込んできた。

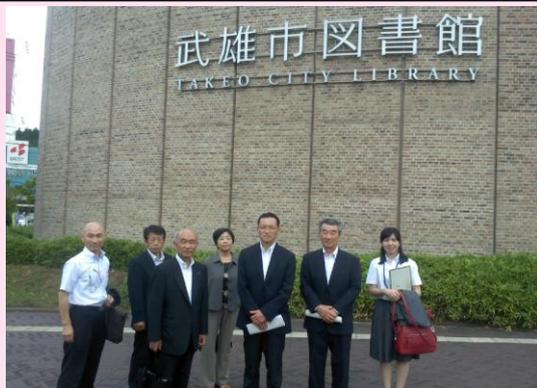
「2冊目の著書『子どもたちはなぜキレるのか』(ちくま新書)を出版した後、平成13年9月、世に送り出した著書「声に出して読みたい日本語」(草思社)は大ベストセラーとなる。一気に齋藤さんは時の人となり、音読がブームに。そして取材や執筆依頼が押し寄せるようになった。宝くじが当たったような大展開。この時、40歳を超えていた。

このような先生の実体験に基づいた話も織り交ぜて、読書についての講演をしていただきます。

11月17日(日)の13:00～「家庭の日」ポスター、読書感想文、感想画表彰式

14:30～齋藤先生の講演会となります。よろしくお願いします。

教育委員研修 (武雄市図書館)



8月29日の教育委員会終了後、佐賀県武雄市図書館に教育委員と教育次長と図書館長と管理係長計7人で武雄市図書館視察に行ってきました。

今、全国で最も話題になっており、視察者も多い公共施設は、武雄市図書館(佐賀県)である可能性が高いといえます。人口5万人ほどのまちに(宇佐市と同規模)、リニューアル開館1か月で10万人、4か月で34万人が入館し、市民アンケートで、8割満足という実績は、「驚異的な数値」ともいえます。

確かに従来の図書館行政からすれば、違う見方もありますが、宇佐市の定評のあるサービスとは違った意味での「サービス」、例えばコーヒーを飲みながら、椅子に座って雑誌を見ることができるといったことは、来館者の多さの一因ではないかと思えます。



10月の主な行事予定

日	曜	行 事
4	金	教委定例課長係長会議
5～	土	宇佐市秋季市民体育大会
6	日	小学校運動会(院内北部、長峰、柳ヶ浦、宇佐小)
7～	月～	まちづくり懇話会(北中ブロック) (9日西部中、24日宇佐中、25日駅川中)
8	火	第2回成人式実施委員会
12～ 14	土～	放生会(和間文化財愛護少年団)
13	日	長洲小運動会
16	水	九州都市教育長協議会 (佐賀県嬉野市)
17	木	
18	金	特別展の開幕式典(大分県立歴史博物館)
22	火	定例教育委員会
22	火	学校訪問(安心院中、佐田小、津房小、南部給食センター、駅中)
25	金	校長・所長会
28	月	教頭会
～25		「石橋絵画コンクール入賞作品」展
18	金	社会見学(四日市南小、横山小、長峰小)
26	土	第16回横光利一俳句大会入賞作品表彰式

図書館

ALTと過ごす小学生夏休み1日キャンプ2013



本市には、4人のALT(外国語指導助手)が小学校5・6年生とは「外国語活動」、中学生とは「英語」の授業でいっしょに学習しています。特に小学校の「外国語活動」の授業では、音声を中心に外国語に慣れ親しませる活動を通じて、言語や文化について体験的に理解を深めたり、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てようと、教師と二人三脚で様々な活動を行っています。

今回はその一環として、小学校3・4年生を対象に「英語を身近に感じ、英語に親しむ気持ち」を培う夏休み1日キャンプを7月22日、23日に南院内小学校・羽馬礼分校で開催しました。

ラッキースター給食の取り組み



南部給食センターでは、給食に対して様々な取り組みを行っています。ラッキースター給食は、不定期ですが、6月、7月、9月に1回ずつ行いました。内容は、学校に1個だけ、星形に切り、別ゆでした人参を入れたもので、子どもたちにとっても学校でひとりだけが当たるといった”お楽しみ”があります。セレクトデザートというのは、不定期ではありますが、7月に行いました。デザートが、フローズン洋梨、フルーツ杏仁、甘夏ミカンゼリーと3種類あり、その中から1種類選んでもらうというものです。6月には、安心院町深見地区の陣さんの畑で作られた安心で、新鮮なバジルを、無料でいただきました。そのバジルの収穫を深見小学校の1・2年生が手伝い、地産地消のバジルを使った「トマトとバジルのパスタ」を作りました。

中学生短期留学



7/29(月)～8/6(火)の9日間、市内中学生19名はオーストラリアのブリスベンにて国際感覚を養うことを目的に、生きた英語に触れながら、ファームステイをする体験型の短期留学を行いました。積極的にコミュニケーションとれたかな???